

3. 定点把握対象感染症患者報告状況（週報）

（1）過去 5 年間の報告状況

疾患名	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年
インフルエンザ	3,095	4	42	13,896	11,080
新型コロナウイルス感染症 ¹⁾				10,061	12,829
RS ウイルス感染症	140	2,912	1,214	1,591	1,143
咽頭結膜熱	222	242	205	1,117	424
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	475	254	109	544	1,506
感染性胃腸炎	3,365	4,397	4,006	5,193	4,700
水痘	192	128	70	68	127
手足口病	71	678	410	530	3,608
伝染性紅斑	115	6	4	7	43
突発性発しん	514	502	399	346	347
ヘルパンギーナ	170	411	66	1,107	303
流行性耳下腺炎	50	30	19	22	13
急性出血性結膜炎	-	-	-	2	4
流行性角結膜炎	29	21	11	26	15
細菌性髄膜炎	3	1	4	5	6
無菌性髄膜炎	4	3	6	12	9
マイコプラズマ肺炎	43	7	2	1	57
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	1	1	-	-	-

1) 令和 2 年 2 月 1 日から指定感染症に追加指定、令和 3 年 2 月 13 日から新型インフルエンザ等感染症に変更、令和 5 年 5 月 8 日から定点把握対象疾患感染症（五類感染症）へ指定された。

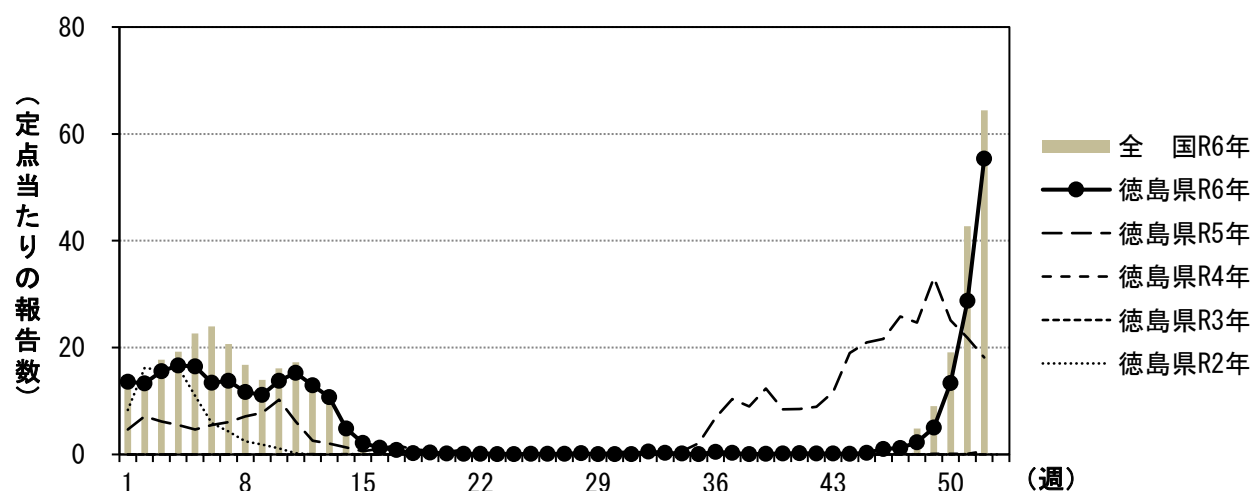
(2) 各疾病の報告状況

① インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）

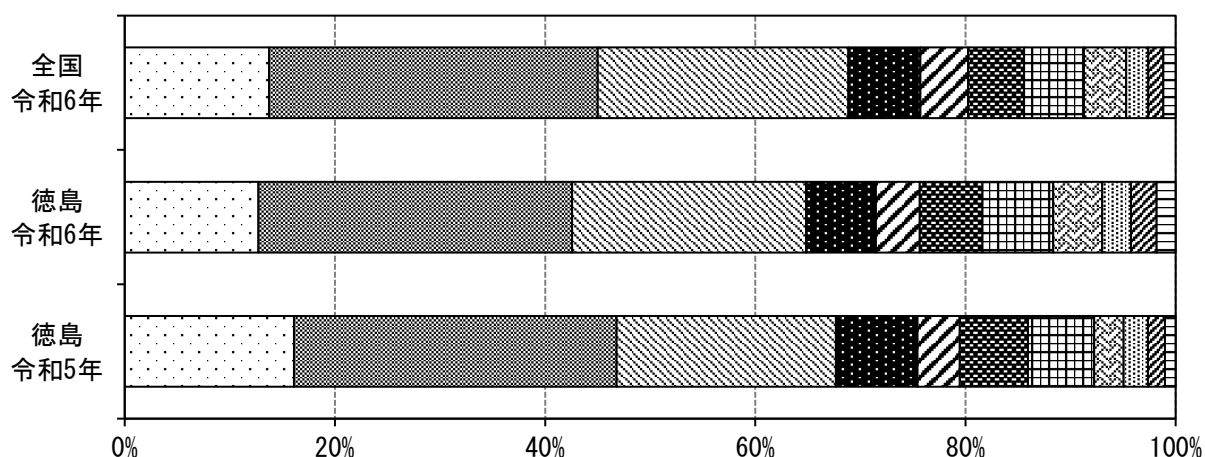
年間報告数は11,080人であり、前年（13,896人）から減少した。しかし、報告数が少なかった令和2年（3,095人）、令和3年（4人）、令和4年（42人）と比較すると多い水準であった。

本年は、前年の流行が持続したまま始まり、第1週は13.59人／定点であった。その後、第13週まで10人／定点を越える状況で推移したが、以降は減少傾向となった。第17週には1.0人／定点を下回り、それ以降は1.0人／定点未満の低い水準で推移した。2024/2025シーズンに入り、第46週に1.03人／定点となり、1.0人／定点を超えたため流行期に入ったと判断された。その後、報告数は急増し、第50週には13.35人／定点と注意報発令基準を超えた。第52週には55.35人／定点となり、警報発令基準を超えると、定点あたりの患者報告数としては過去最多となった。年齢別報告数では、4歳以下12.7%、5～9歳29.8%、10～14歳22.3%、15～19歳6.7%、20歳以上28.5%であり、5～14歳の割合が高かった。

【インフルエンザの週別患者報告状況】



【インフルエンザの年齢別報告数】



□4歳以下 ■5～9歳 ▨10～14歳 ■15～19歳 ▨20歳代 ▨30歳代 ▨40歳代 ▨50歳代 ▨60歳代 ▨70歳代 ▨80歳以上

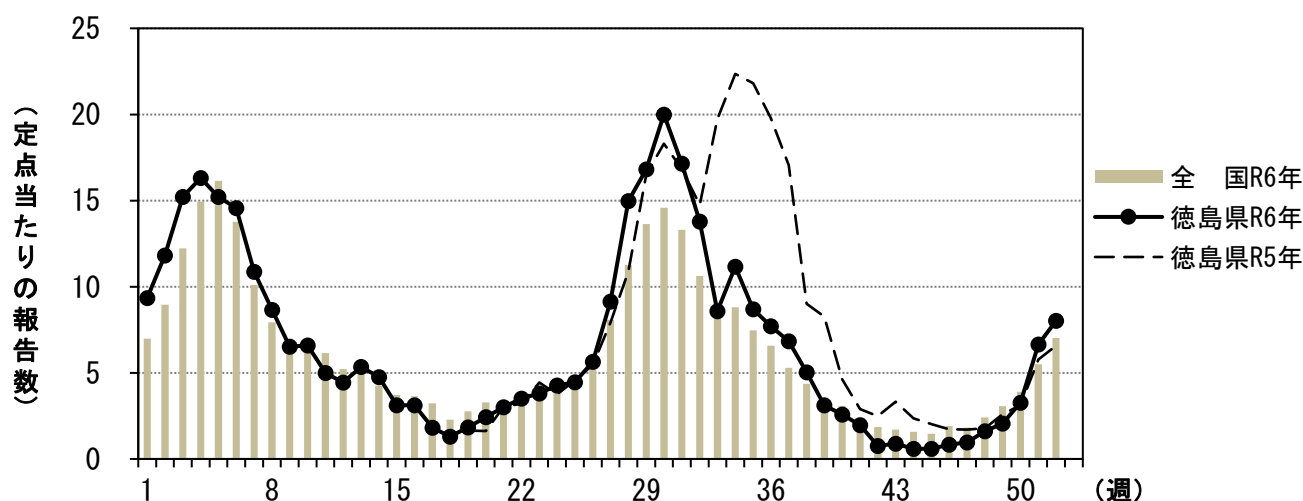
② 新型コロナウイルス感染症

年間報告数は12,829人であった。本疾患は、令和5年5月8日から定点把握対象疾患となつてからの報告数であることを考慮すると、前年(10,061人)から減少したと考えられる。

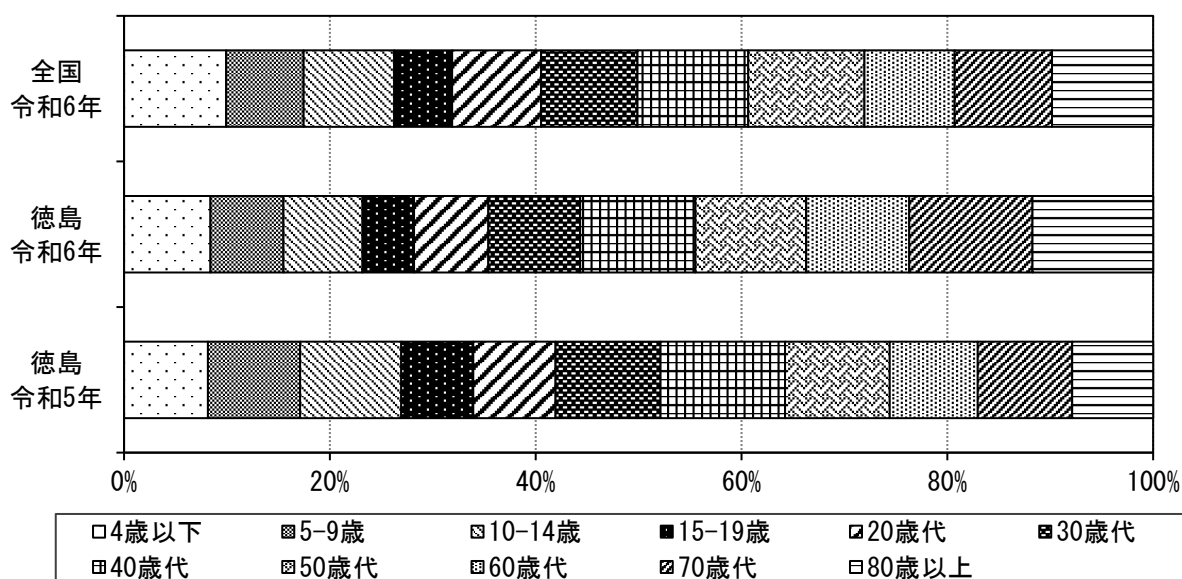
本年の報告数では、第2週に10人／定点を越え、第4週に最初のピーク(16.32人／定点)となつた後、第8週には10人／定点を下回つた。その後、第18週に1.30人／定点まで減少したが、再び増加へ転じた。第30週に2度目のピーク(20.00人／定点)を示した後、第44週に0.59人／定点まで減少した。しかし、年末にかけて再び増加傾向となり第52週には8.03人／定点となつた。

年齢別報告数は、4歳以下8.4%、5～9歳7.1%、10～14歳7.7%、15～19歳5.0%、20歳代7.2%、30歳代8.9%、40歳代11.2%、50歳代10.8%、60歳代10.0%、70歳代12.0%、80歳以上11.7%であった。

【新型コロナウイルス感染症の週別患者報告状況】



【新型コロナウイルス感染症の年齢別報告数】



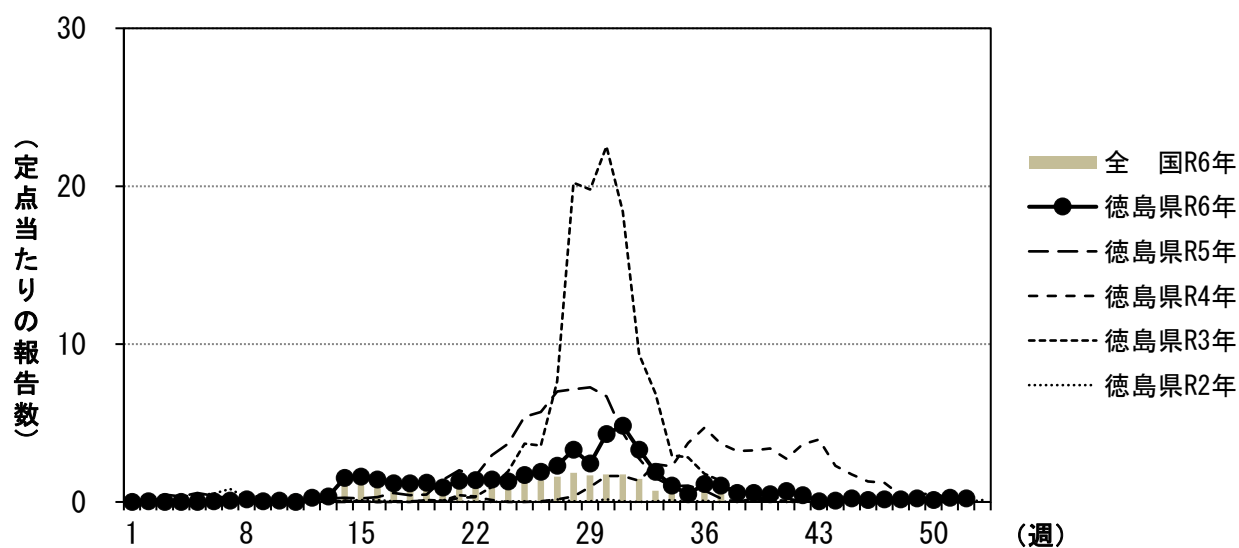
③ RS ウイルス感染症

年間報告数は1,143人と、前年（1,591人）から減少した。調査開始以降最も多い報告数であった令和3年以降減少しており、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行以前の報告数より、やや低い数値であった。

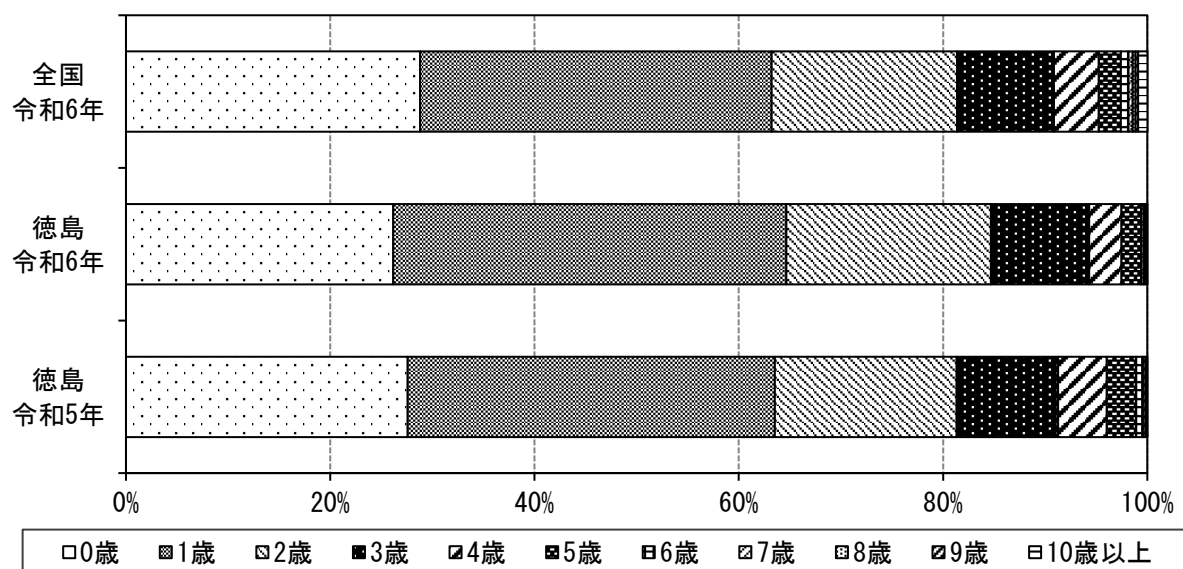
本年は4月初旬（第14週）に1.0人／定点を超えゆるやかに増加し、7月下旬（第31週）にピーク（4.83人／定点）を迎えた。その後減少し、第38週以降1.0人／定点より少なく推移した。

年齢別報告数は、0歳26.2%、1歳38.5%、2歳20.0%、3歳9.6%、4歳以上5.7%であり、2歳までの乳幼児からの報告が多かった。

【RS ウイルス感染症の週別患者報告状況】



【RS ウイルス感染症の年齢別報告数】



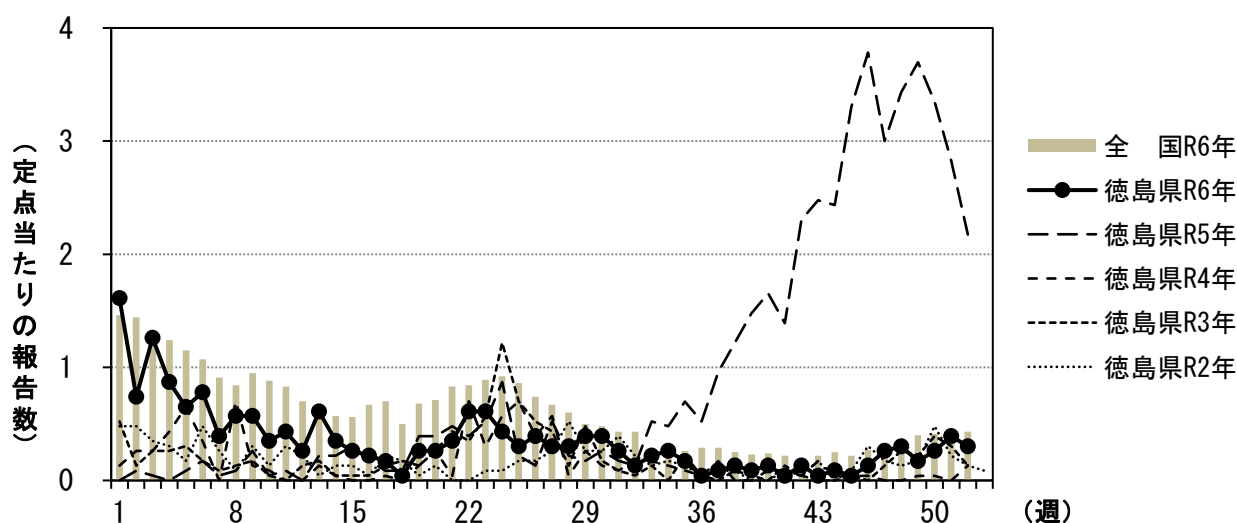
④ 咽頭結膜熱

年間報告数は424人と、大きな流行が見られた前年（1,117人）から減少した。

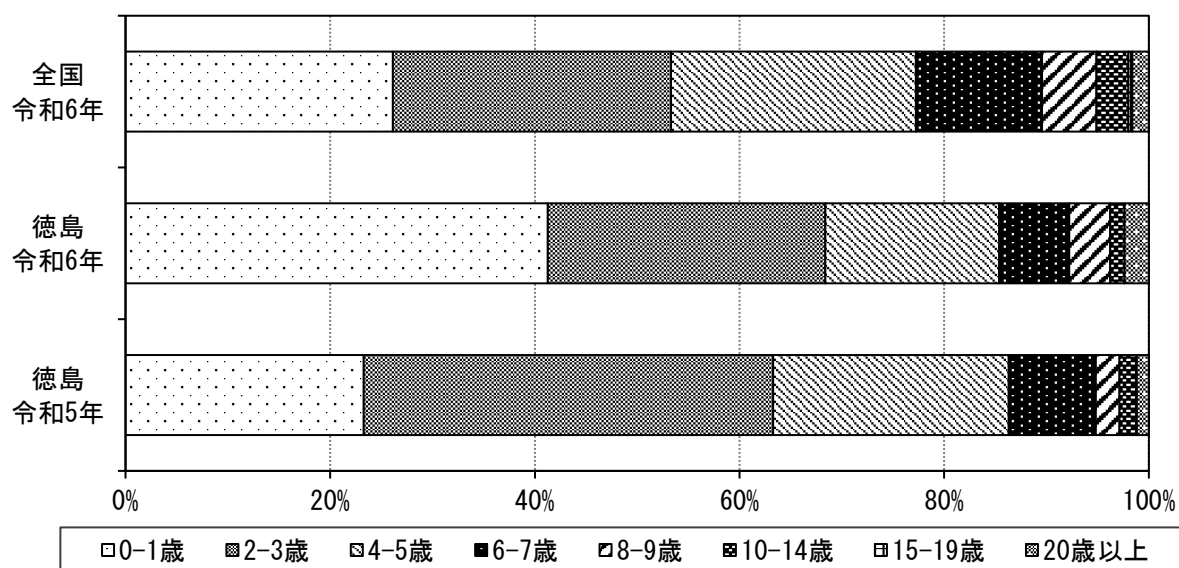
本年は、前年11月中旬（第46週）にピーク（3.78人／定点）を示した流行を受け、第1週に1.61人／定点から始まった。その後はゆるやかに減少し、第14週以降は、5月下旬（第22週、23週）に0.61人／定点とやや増加した時期を除き、0.5人／定点以下で推移した。

年齢別報告数は、0～1歳41.3%、2～3歳27.1%、4～5歳17.0%、6～7歳6.8%、8歳以上7.8%であり、5歳以下が約85%を占めた。

【咽頭結膜熱の週別患者報告状況】



【咽頭結膜熱の年齢別報告数】



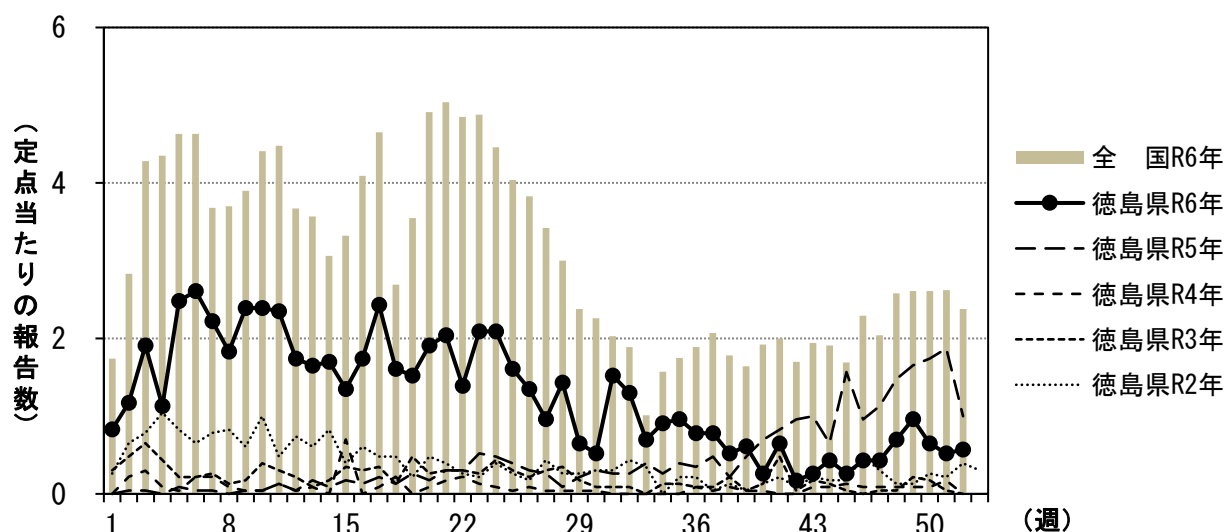
⑤ A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

年間報告数は1,506人と、前年（544人）から増加し、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行以前の報告数と同程度の水準であった。

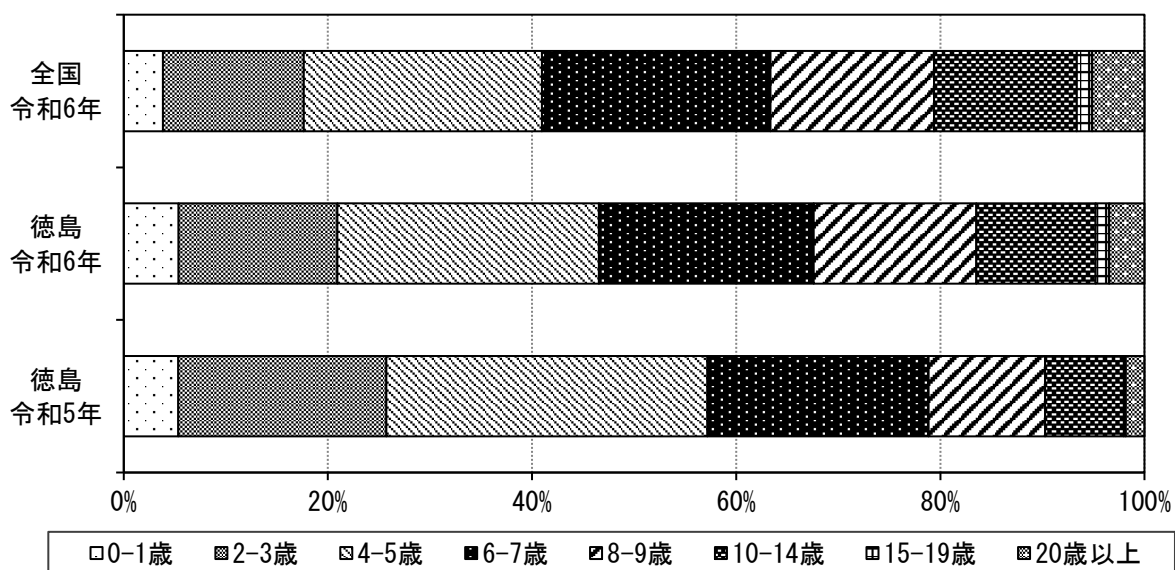
本年は、年前半は2.0人／定点前後で推移したが、第33週以降は、1.0人／定点未満の低い水準で推移した。

年齢別報告数は、0～1歳5.4%、2～3歳15.5%、4～5歳25.6%、6～7歳21.0%、8～9歳15.9%、10～14歳11.7%、15歳以上4.8%であり、2～9歳が全体の約8割を占めた。

【A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の週別患者報告状況】



【A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の年齢別報告数】



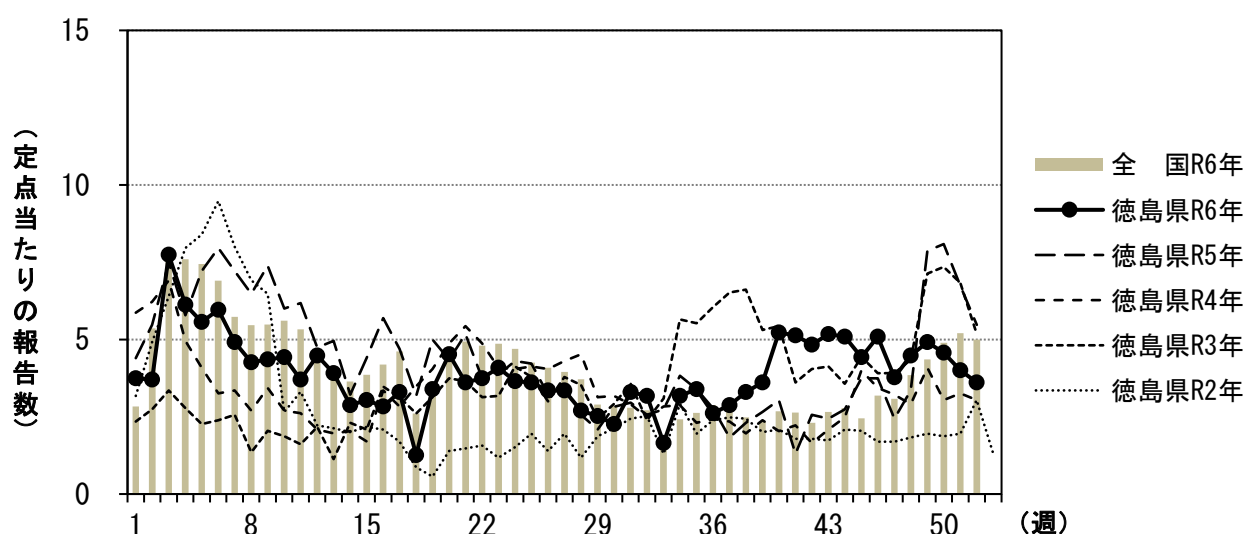
⑥ 感染性胃腸炎

年間報告数は4,700人と、前年（5,193人）から減少した。

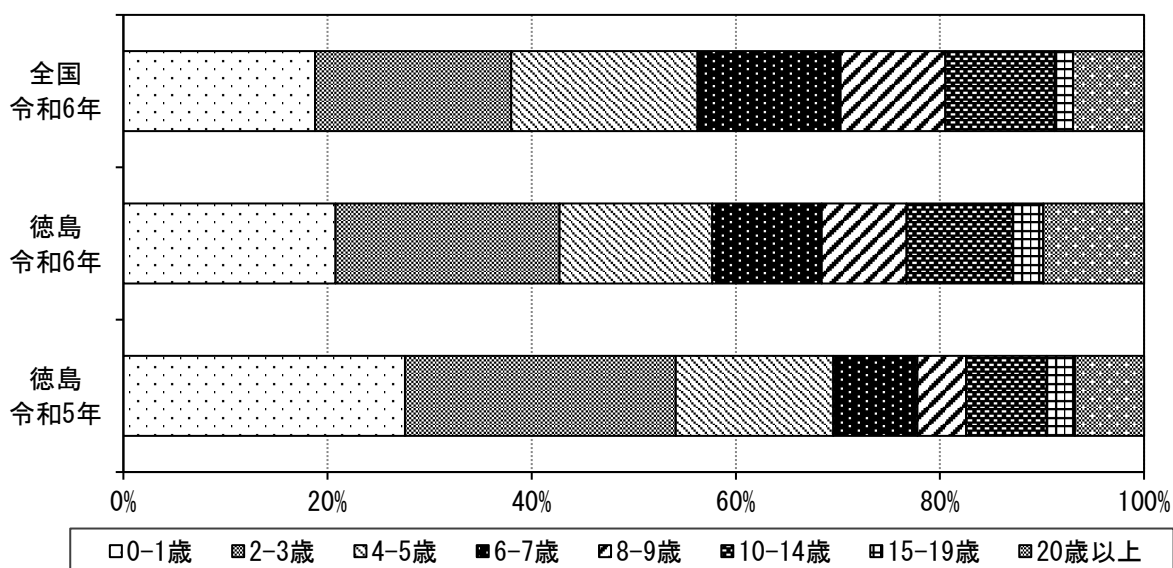
本疾患は、初冬から増加して12～1月頃に一度ピークが見られた後、春にもう一度なだらかなピークを形成し、初夏まで流行が続くパターンが多い。本年は、年初から第7週にかけて、第3週をピーク（7.74人／定点）とする山が見られた。その後は1.5～4.0人／定点前後で推移したが、第40週からやや増加し、年末にかけては5.0人／定点前後で推移した。

年齢別報告数は、0～1歳20.8%、2～3歳21.9%、4～5歳15.0%、6～7歳10.7%、8～9歳8.3%、10～14歳10.4%、15歳以上12.9%であった。5歳以下の乳幼児が全体の約6割を占めた。

【感染性胃腸炎の週別患者報告状況】



【感染性胃腸炎の年齢別報告数】



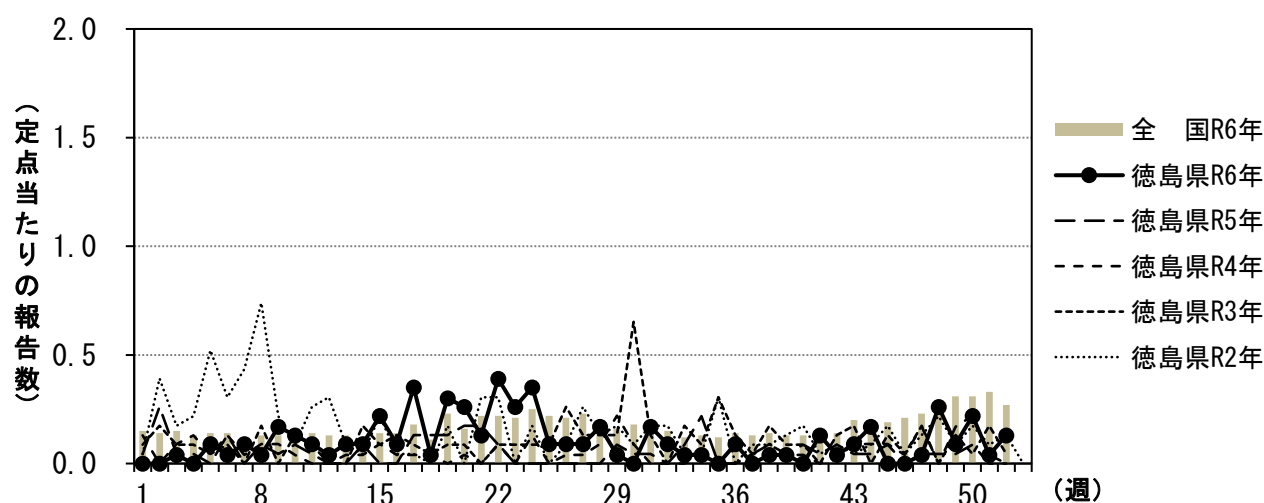
⑦ 水痘

年間報告数は127人であり、前年（68人）から増加した。

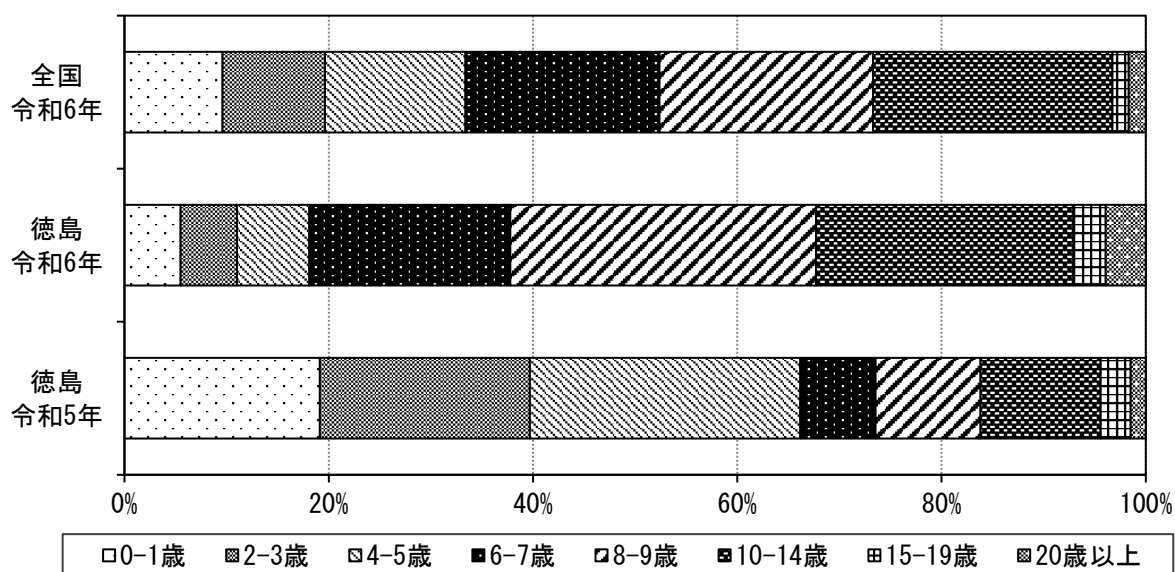
本年は大きなピークは見られず、年間を通じて低水準（0.40人／定点以下）で推移した。

年齢別報告数は、0～1歳5.5%、2～3歳5.5%、4～5歳7.1%、6～7歳19.7%、8～9歳29.9%であった。10歳未満で全体の67.7%を占めたが、10～14歳も25.2%を占めた。

【水痘の週別患者報告状況】



【水痘の年齢別報告数】



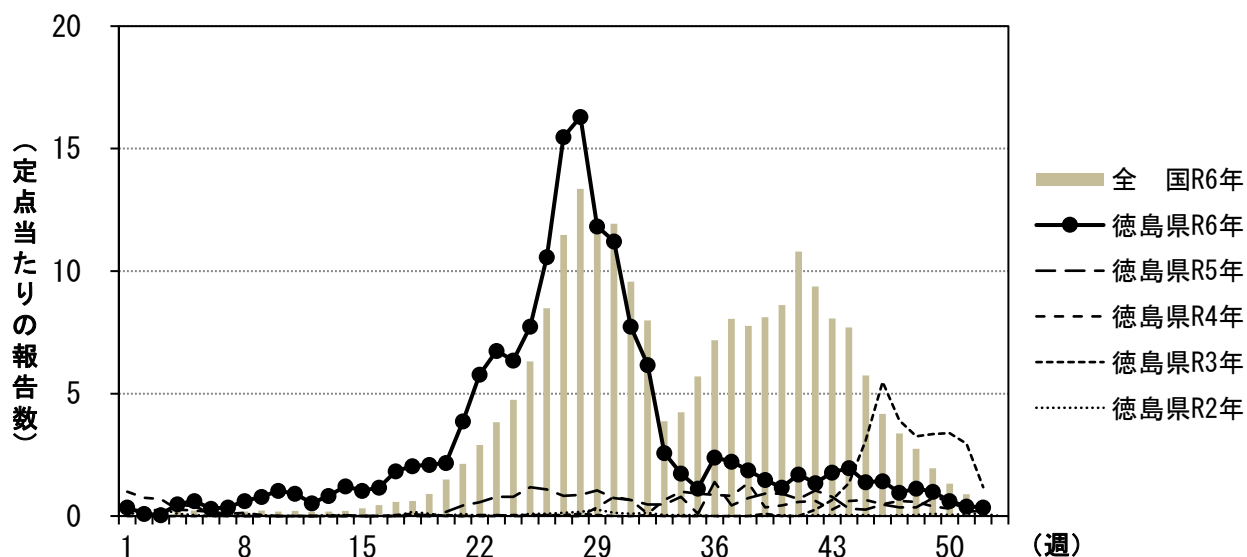
⑧ 手足口病

年間報告数は3,608人であり、前年（530人）から大きく増加し、過去10年間では平成27年に次いで多い報告数であった。

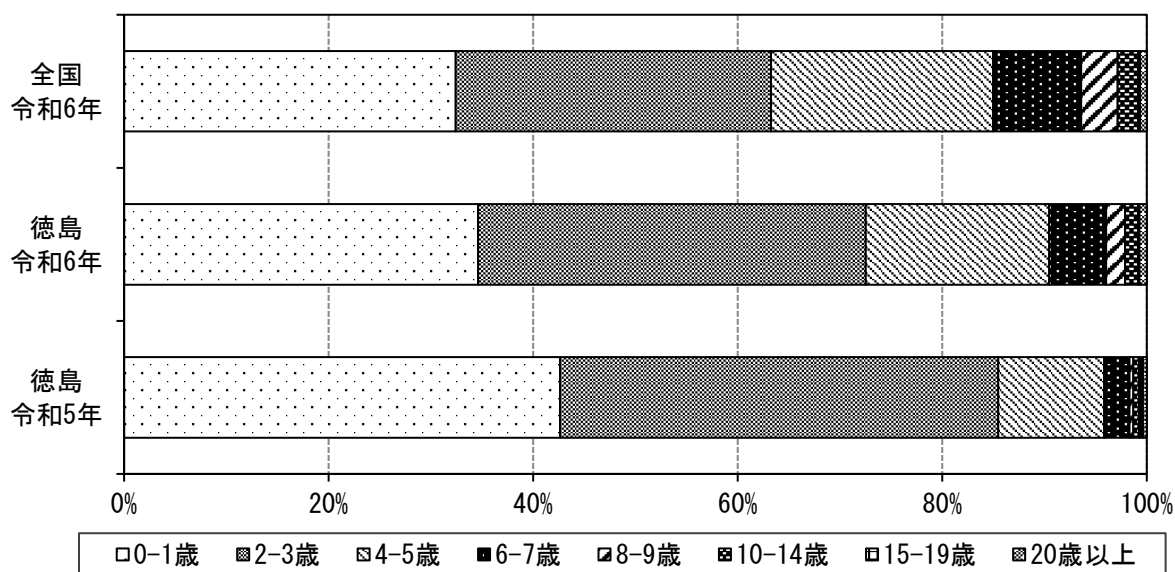
本年の報告数では、年初からゆるやかに増加していたが、第21週以降大きく増加し、第28週（16.30人／定点）にピークを示した。その後は減少し、第35週には1.13人／定点となった。以降もゆるやかな減少が続き、第52週には0.35人／定点となった。

年齢別報告数は、0～1歳34.6%、2～3歳37.9%、4～5歳17.9%、6～7歳5.6%、8歳以上4.0%であり、5歳以下が全体の約9割を占めた。

【手足口病の週別患者報告状況】



【手足口病の年齢別報告数】



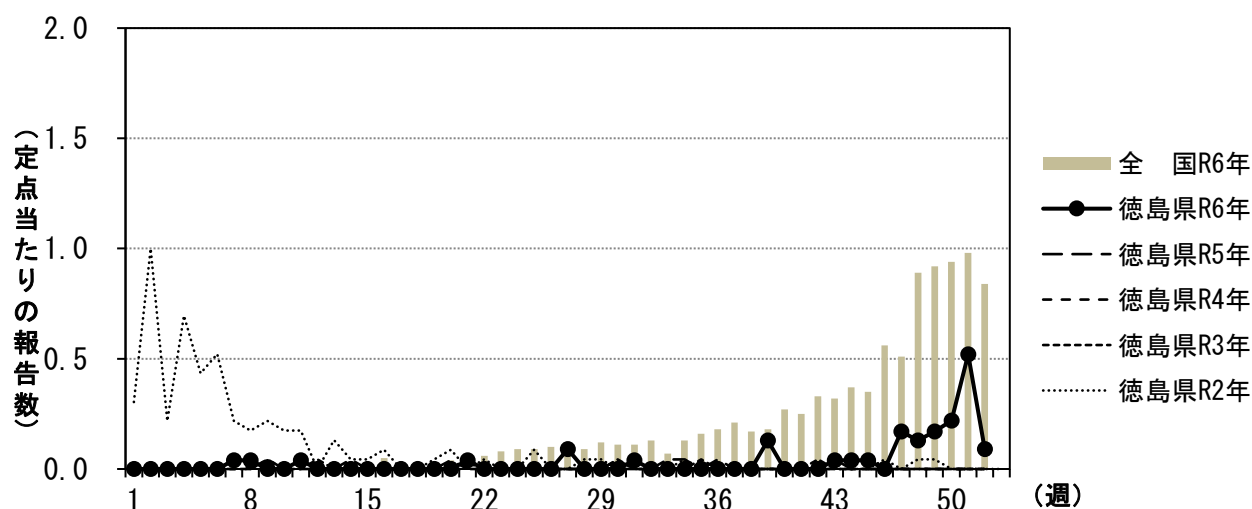
⑨ 伝染性紅斑

年間報告数は43人であり、前年（7人）から増加した。令和3年以降は10件未満の報告数で推移していたが、本年は4年ぶりの増加となった。

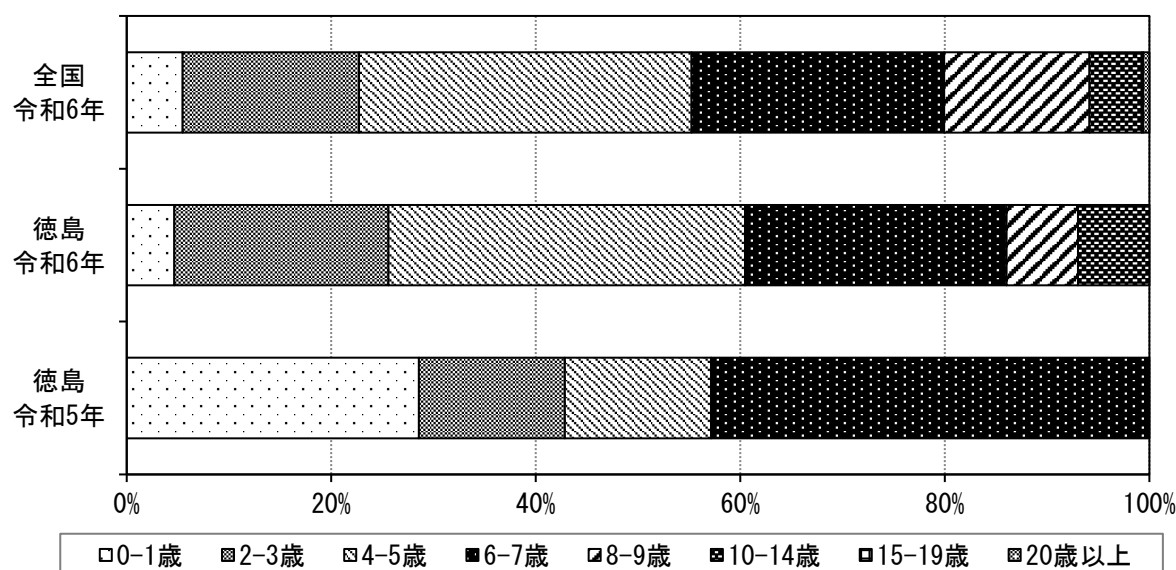
週別の患者報告数では、年初から0.1人／定点未満で推移していたが、第47週以降に報告が増加し、第51週に0.52人／定点となった。

年齢別報告数は、0～1歳4.7%、2～3歳20.9%、4～5歳34.9%、6～7歳25.6%、8歳以上14.0%であった。2～7歳が全体の約8割を占め、この年齢層からの報告が特に多かった。

【伝染性紅斑の週別患者報告状況】



【伝染性紅斑の年齢別報告数】



⑩ 突発性発しん

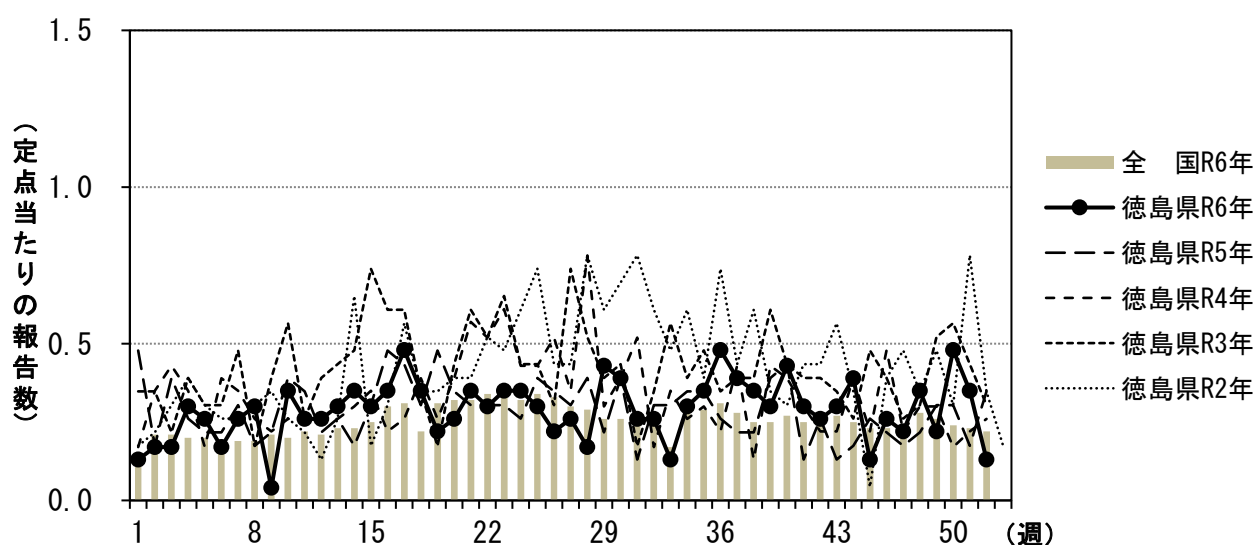
年間報告数は 347 人であり、過去 10 年間では、前年（346 人）に次いで少ない報告数であった。

本疾患は、季節性も年次推移も認められず、年間を通じてほぼ一定の範囲内で推移するとされている。また、6 か月～1 歳の小児に好発し、ほとんどの子どもが 3 歳までに感染するといわれている。

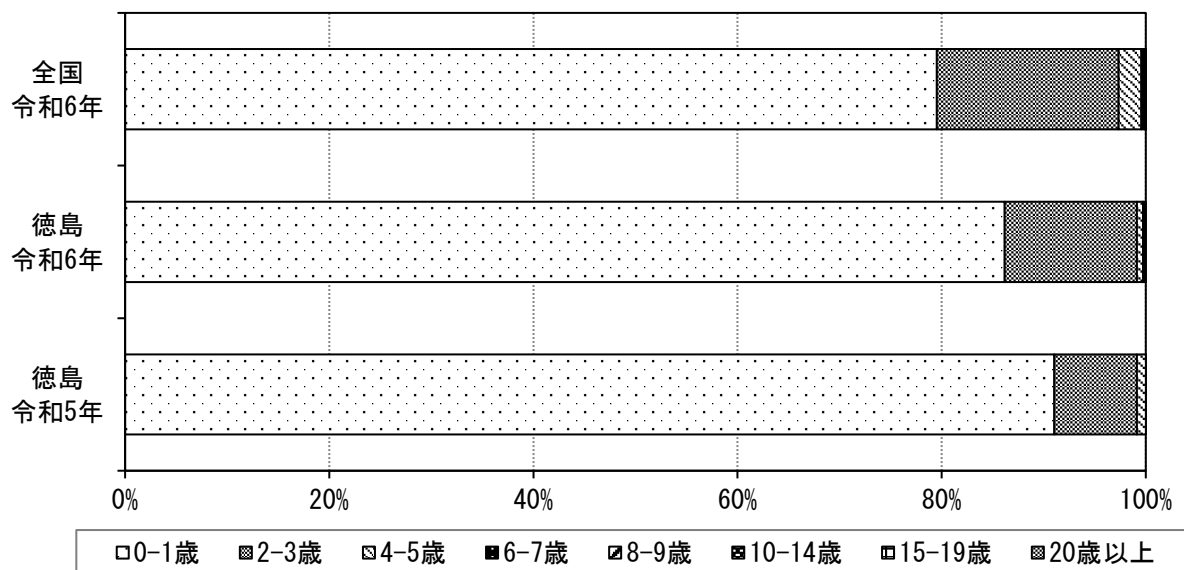
本年も、前述の一般的な傾向と一致し、明確なピークは示さず、大きな季節的変動も見られないまま、一定の範囲内（0.04～0.48 人／定点）で推移した。

年齢別報告数は 0～1 歳 86.2%、2～3 歳 13.0%、4～5 歳 0.6%であり、1 歳以下が大半を占めた。これも、本疾患の好発年齢（6 か月～1 歳）を反映した結果であった。

【突発性発しんの週別患者報告状況】



【突発性発しんの年齢別報告数】



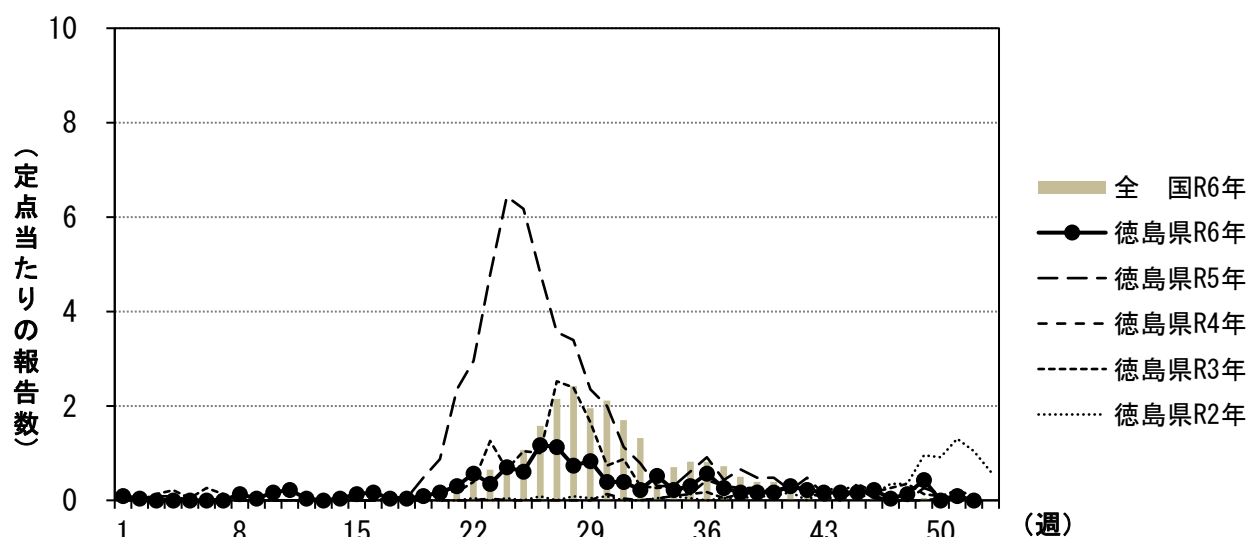
⑪ ヘルパンギーナ

年間報告数は303人であり、過去10年で最も多い報告数であった前年(1,107人)から大きく減少した。

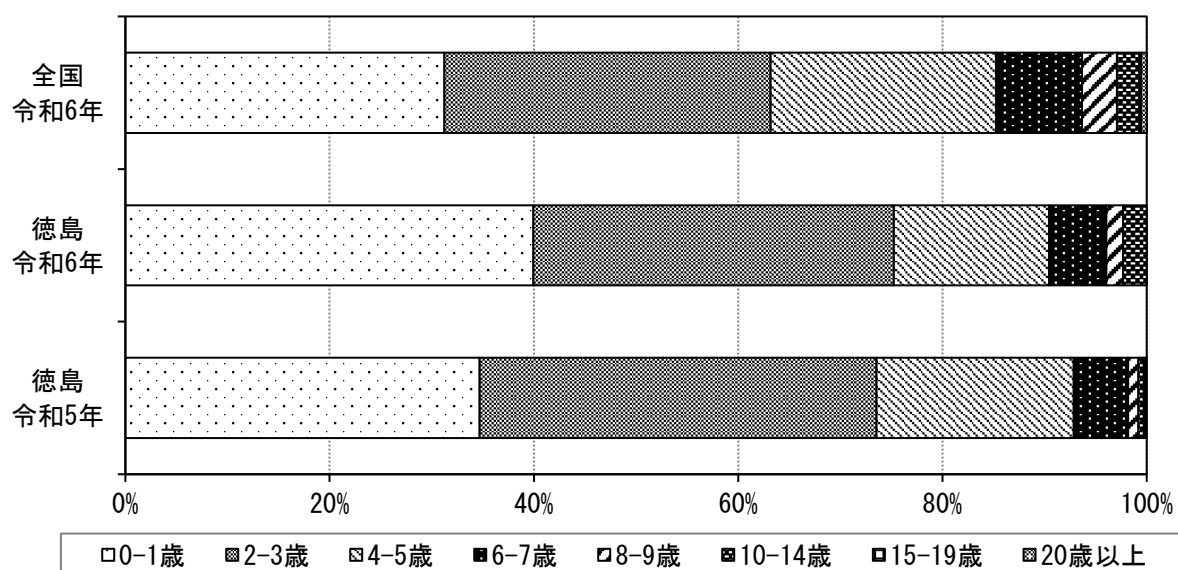
本疾患は、手足口病とともに主に乳幼児の間で流行する夏期の代表的な感染症である。本年は、5月下旬(第20週)から報告数が増加し始め、6月下旬(第26週)にピーク(1.17人/定点)を示した。その後は減少傾向となり低い値で推移した。

年齢別報告数では、0～1歳 39.9%、2～3歳 35.3%、4～5歳 15.2%、6～7歳 5.6%、8歳以上 4.0%であり、5歳以下の乳幼児が約9割を占めた。

【ヘルパンギーナの週別患者報告状況】



【ヘルパンギーナの年齢別報告数】

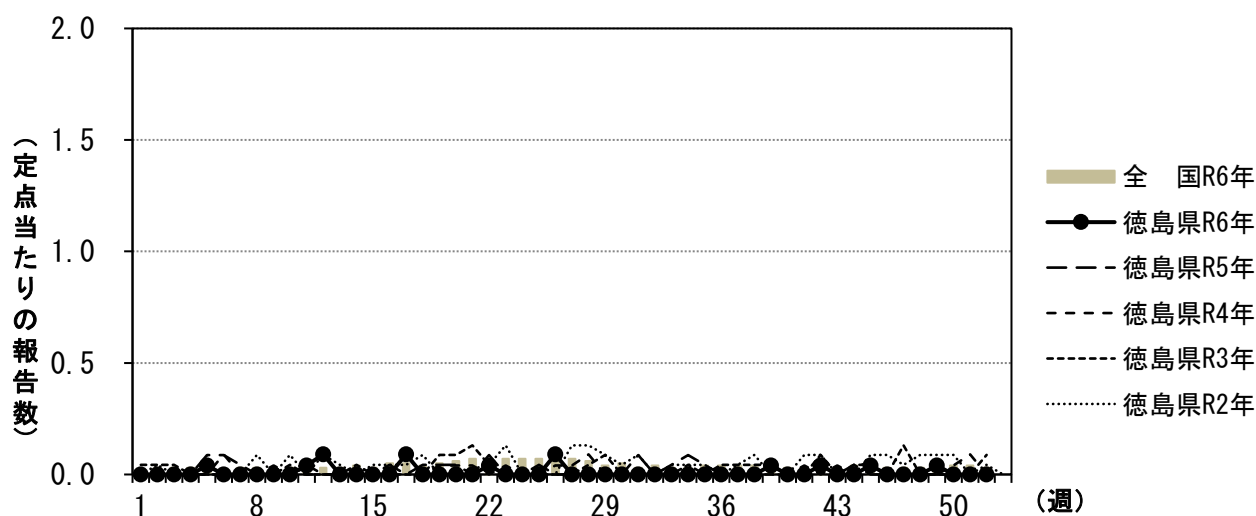


⑫ 流行性耳下腺炎

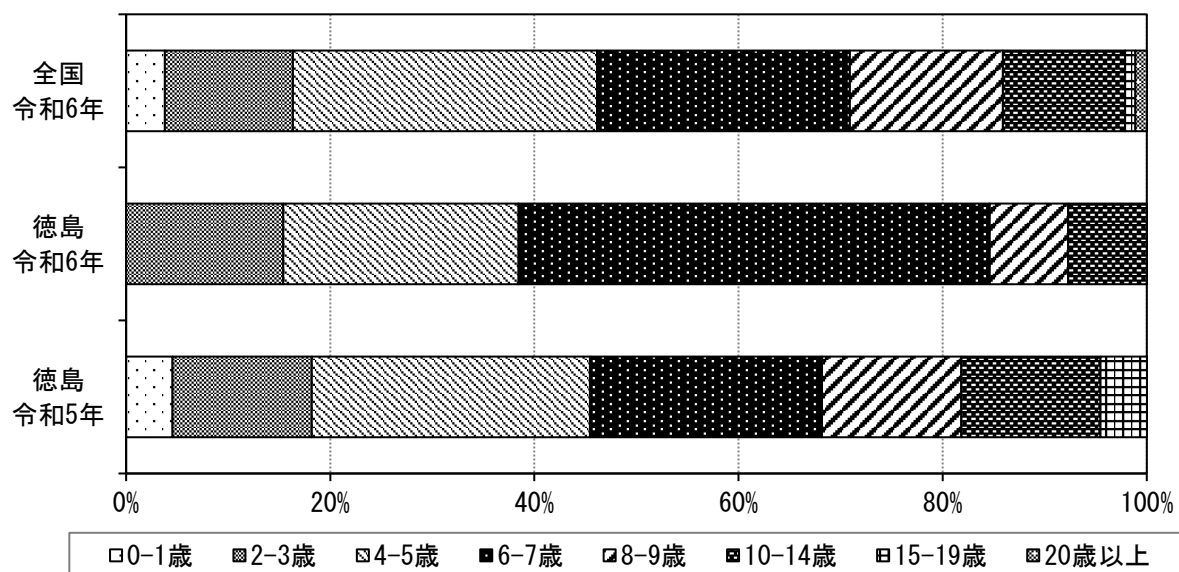
年間報告数は13人であり、前年(22人)から減少し、過去10年間では最も少ない報告数であった。ここ10年では、平成28年から29年にかけて大きな流行があった。

年齢別報告数は、6歳が4人(30.8%)と最も多かった。

【流行性耳下腺炎の週別患者報告状況】



【流行性耳下腺炎の年齢別報告数】



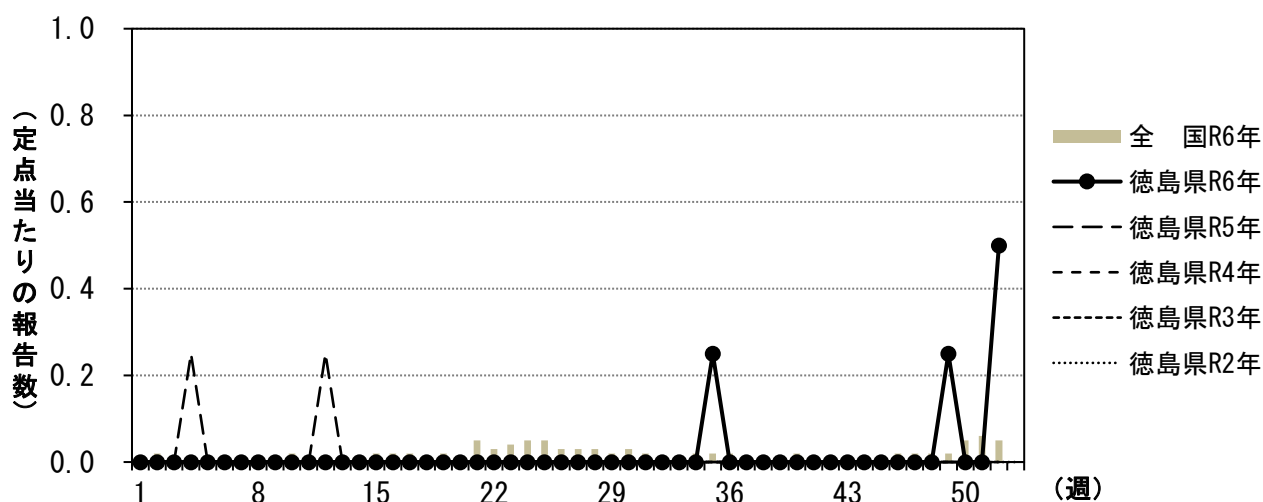
⑬ 急性出血性結膜炎

年間報告数は4人であり、前年（2人）から増加し、過去5年間では最多の報告数であった。

本疾患は局地的に流行することがあるが、流行のない年は季節性も見られず、報告数は低いまま微増微減を繰り返すとされている。

年齢別報告数は、10歳代2人、20歳代1人、40歳代1人であった。

【急性出血性結膜炎の週別患者報告状況】

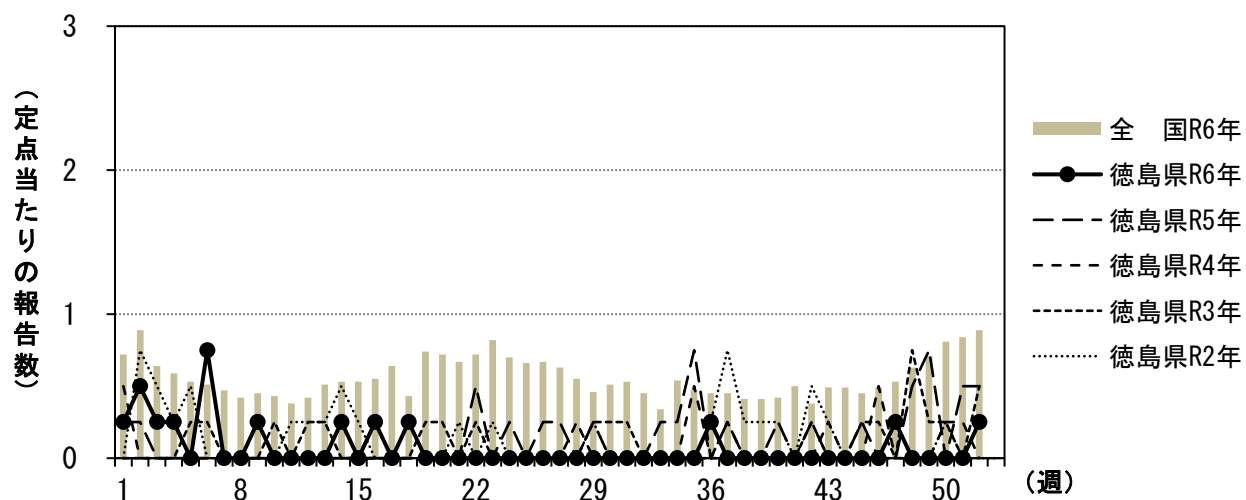


⑭ 流行性角結膜炎

年間報告数は15人であり、前年（26人）から減少した。過去10年間では、令和4年（11人）に次いで2番目に少ない報告数であった。

年齢別報告数は、20歳未満1人（6.7%）、20歳代2人（13.3%）、30歳代5人（33.3%）、40歳代5人（33.3%）、50歳代2人（13.3%）であった。30歳代および40歳代が全体の約7割を占め、これらの年齢層が多かった。

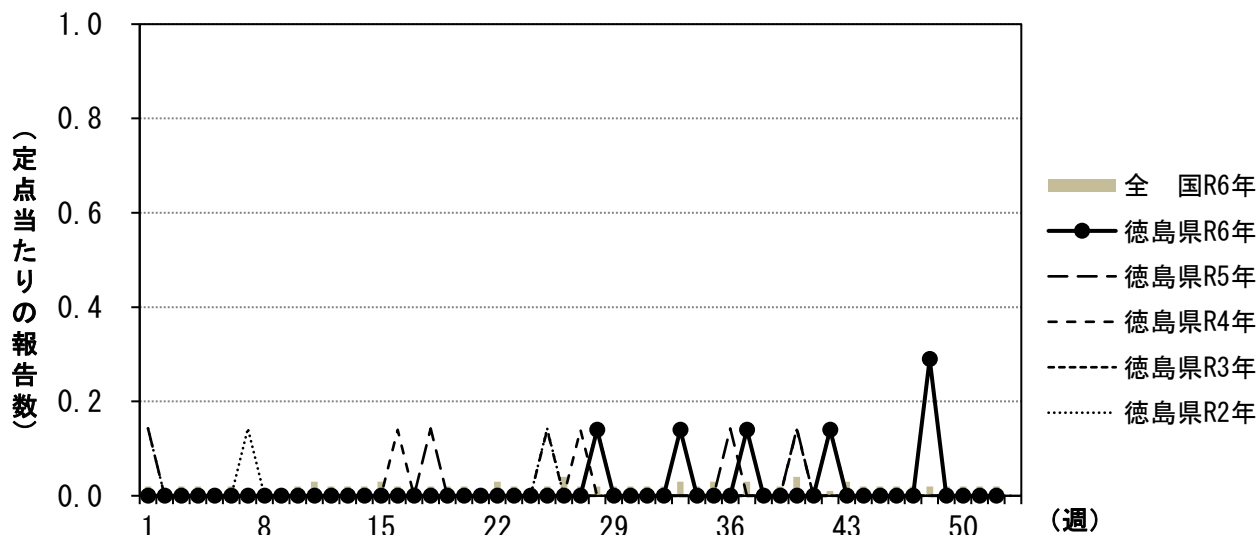
【流行性角結膜炎の週別患者報告状況】



⑮ 細菌性髄膜炎（髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く）

年間報告数は6人であった。過去5年間の報告数は、毎年1～5人で推移している。年齢別の内訳は、6か月未満1人、40歳代1人、50歳代1人、60歳代1人、70歳代2人であった。

【細菌性髄膜炎の週別患者報告状況】

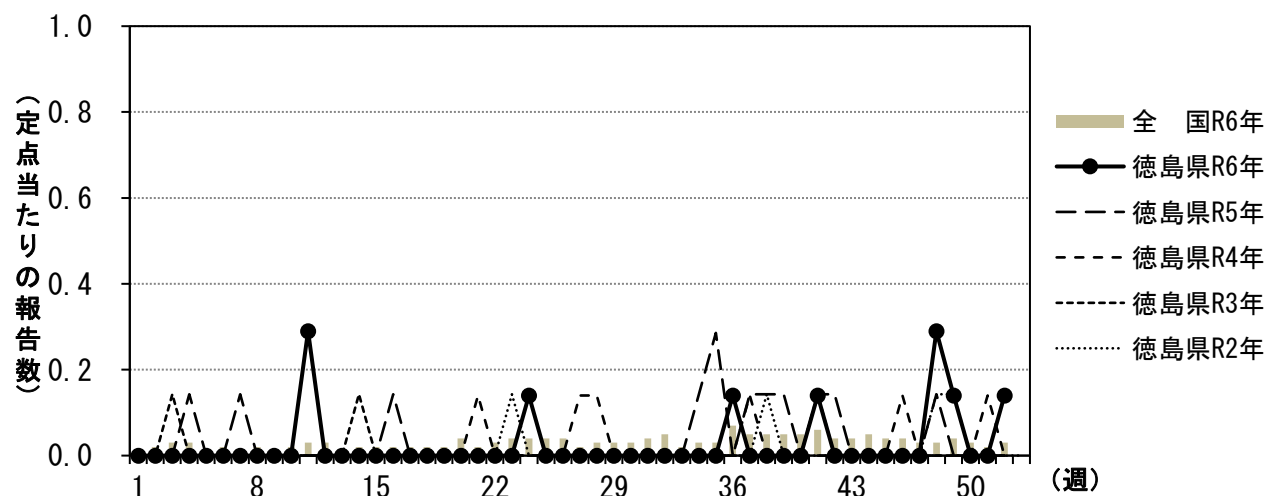


⑯ 無菌性髄膜炎

年間報告数は9人（前年12人）であり、過去10年間では、前年に次いで2番目に多い報告数であった。

年齢別報告数は、6か月未満1人、10歳代1人、20歳代2人、30歳代2人、40歳代3人であった。

【無菌性髄膜炎の週別患者報告状況】



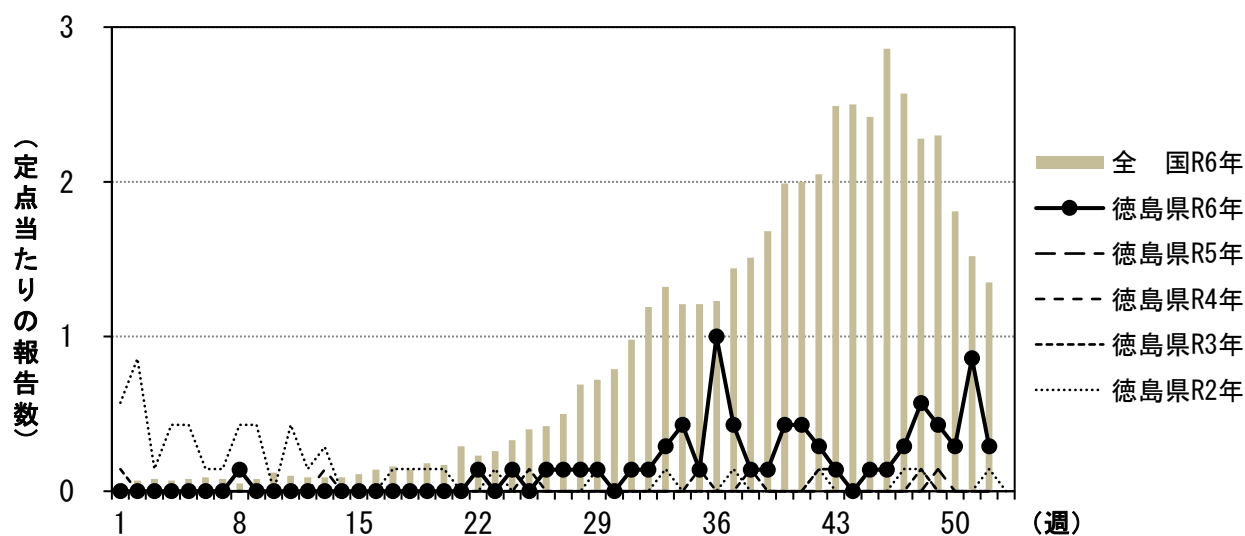
⑰ マイコプラズマ肺炎

年間報告数は57人であり、前年（1人）から大きく増加した。本疾患は、年間を通して発生するが、秋から春にかけてやや多くなるとされる。令和元年から令和2年にかけて流行が見られたが、令和3年以降は目立ったピークはなく、低水準（0.14人／定点以下）で推移していた。

本年は、5月下旬（第22週）から報告が続き、第36週に1.0人／定点と最も多くなった。その後も、増減しながらも報告がやや多い状況が続いた。

年齢別報告数は、10歳未満20人（35.1%）、10歳代16人（28.1%）、20歳代8人（14.0%）、30歳代6人（10.5%）、40歳代2人（3.5%）、70歳以上5人（8.8%）であった。

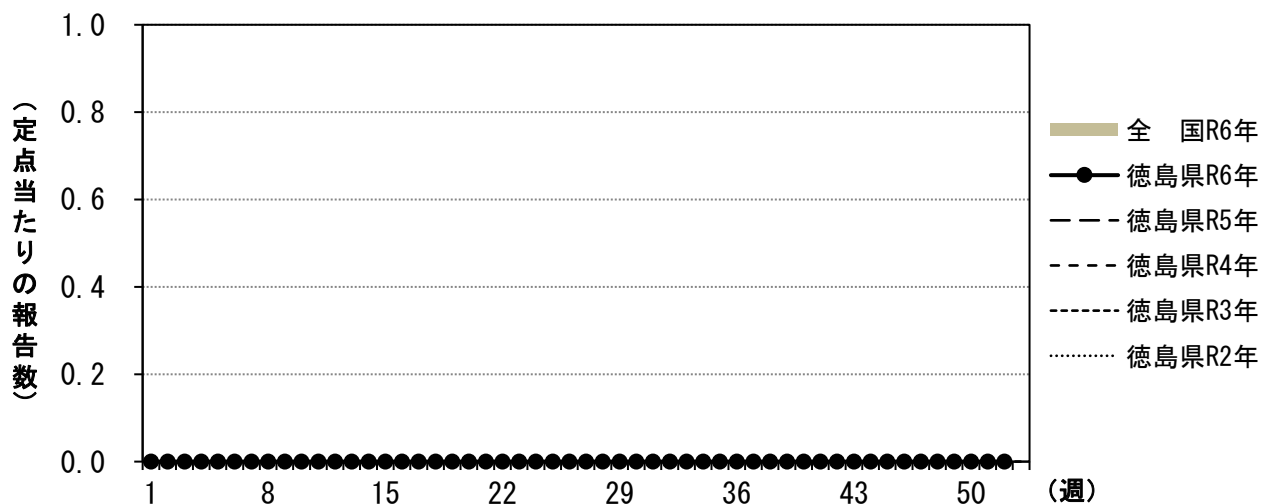
【マイコプラズマ肺炎の週別患者報告状況】



⑱ クラミジア肺炎（オウム病を除く）

前年に引き続き、本年も報告はなかった。

【クラミジア肺炎の週別患者報告状況】



⑭ 感染性胃腸炎（ロタウイルス）

前年に引き続き、本年も報告はなかった。

【感染性胃腸炎（ロタウイルス）の週別患者報告状況】

